

「TRAIN既加入組織経由接続に関する技術細則」作成にかかわって

東海大学電子計算センター湘南計算機室
星野 辰夫

「TRAIN既加入組織経由接続に関する技術細則」の作成にかかわったことから、その経緯について説明します。

TRAINへの接続に関する取り決めはすでに整備されつつある状況でしたが、当時の主流であったUUCP接続を持つ学校組織がTRAINに参加するときのことが問題となりました。また、当時は地域ネットワークの立ち上げが盛んで、TRAIN参加組織でも各地域で地域ネットワークを立ち上げ、インターネットの普及に貢献をしたいというところもありました。

また、1992年12月の最初のTRAIN技術部会において、TRAINに学校（AC）以外のドメインを持つ組織が接続されることが予想されることから、対応を考えておく必要があるということになりました。そこで、東海大の星野がそのとりまとめ役として作業をすることになりました。

部会長の平原先生の推薦だったように記憶していますが、東海大学は1992年4月にTRAINに参加して日も浅く、私としてもインターネットについての技術的な能力がない状態、部会員は何らかの担当をしなければならないという雰囲気、主に事務的な仕事であるようだ、などの理由からまとめ役を引き受けました。しかし、これが意外に負担になり、また長期にわたることとなりました。

1993年1月下旬にようやく最初の案として、IPアドレスを必要としないUUCP接続による参加、すでにTRAINに参加している組織にIP接続をして参加するTRAIN準参加、既に参加している他ネットワーク組織から参加する論理参加などの形態を提案しました。準参加、論理参加という言葉がどこからで来たかは不明ですが、技術部会の会議の席で発言されたものをそのまま採用したように記憶しています。

しかし、最初の案についての反応は私の認識不足もあり、組織の接続と経路制御の関係が明確でなく、東京工業大学と北陸先端科学技術大学院大学との関係が規則にあわない、という指摘がありました。また、あまりにもいろいろな場合を想定して作成したので、内容が散漫になっているようだとの指摘もありました。

このときはじめて電子メールで議論することを経験しました。いくつかのメールが飛び交いましたが、最初のうちは届いたメールを読むのが怖かったように記憶しています。

1993年3月中旬には責任分解点を明確にするために、以下のような図を提案し、再度検討することになりました。それでも、まだ曖昧な部分があるため、再度COを含めないで検討することになりました。以下のように、当時には添付ファイルをメールで送ることが一般的ではなく、また、Windowsアプリケーションで作成したファイルを送ることはインターネットの世界では異端視されていたので、図をメールで送受信することの難しさを実感したものです。

その後、平原部会長の移動があり、しばらくは議論が中断することになりました。

1993年5月下旬になり、千葉大学と群馬大学からUUCP接続で下流に学校などを接続したいという話がでて、再び参加組織経由のTRAIN参加の議論が復活しました。このとき、東海大学でも民間会社からUUCPで接続したいという要望が寄せられていましたが、TRAINの規則がなかったため、他を検討するように勧めていました。

千葉大学、群馬大学の場合は接続する組織が学校であることから特に問題なく接続が可能になったと思います。

6月になると、新しい中山部会長が前任地からメールで議論に参加してきました。

ようやく新しい部会長である中山先生が着任されましたので、新たにじっくりと読んでいただいたら、さらにいくつかの問題点が指摘され、再度修正することになりました。このときの話題として、東京大学に直接UUCP接続を許すか否かと言う問題がありました。「これからはIP接続の時代であることから、東京大学に直接接続する場合には、強制的に専用線IP接続のみにしよう」という意見もありました。今までに接続してきた組織の経験から、「TRAINは専用線IP接続だけしか認めていない」というお墨付きがあれば、学内の予算の確保が容易になるなどの理由からです。最終的には、UUCP接続は将来的にIP接続する場合に認めるという案もありましたが、管理上の問題で東京大学へUUCPで直接接続することは無くなったと思います。

その後も細かな修正があったようですが、ようやく10月に承認されて制定となりました。

1992年12月から1993年10月までの10カ月間もかかるとは思ってもおらず、私にとっては非常におもしろくもあり、また、つらかったように記憶しています。しかし、ここまでできたのも、平原先生、中山先生、大塚先生、太田先生や他の部会員に助けていただいたことが大きな理由になっているかと思いません。非常にいい経験になったと思っています。感謝いたします。

